

# 公民科「現代社会」授業実践紹介

授業者：藤澤 晃

学 年：2年次

単元名：日本国憲法の基本原理～基本的人権の保障

## 単元のねらい（7つのチカラ：自分を理解する力・考える力・自立する力）

- ①日本国憲法の特徴やさまざまな人権のねらいを理解しながら条文を読みとり、自分の生活と関連づけて活用することができる。
- ②日本国憲法における人権保障が現代の問題とどのように関連しているのかを考察し、自身の考えを表現できる。
- ③日本国憲法が私たちの生活におけるさまざまな権利の保障につながっていることを理解して、望ましい社会をつくるために必要なことを考察できる。

## 単元の流れとパフォーマンス課題

### ① 日本国憲法と三つの原理（1時間）

ねらい：大日本帝国憲法と日本国憲法の内容を理解し、その比較から日本国憲法の特徴が説明できる。

### ② 基本的人権の保障（1）法の下での平等（1時間）

ねらい：平等権が保障する内容と差別をなくす試みを学んだのち、障がい者への差別の根本的な問題は何か。どうすれば差別を解消できるのかを考え、具体的な事実をしめして、自らの意見が発表できる。

### ③ 基本的人権の保障（2）自由権の基本権（4時間）

ねらい：a 冤罪事件の実例から身体の自由に関わる条文と原則を実感できるように学ぶ。

パフォーマンス課題：あなたが考える憲法と法律のちがいは何か、立憲主義の観点から比較の文章をつくろう。

グループワークで文を検討→



b 経済の自由に関する規定を実生活との関わりから学び、職業選択の自由を守る法律や判例を学ぶことで生徒の「法に対する考え方」を育てる。

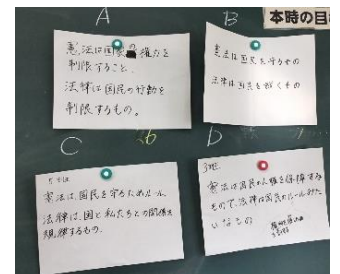
グループで作成した説明→

### ④ 基本的人権の保障（3）社会権の基本権、参政権、公共の福祉（1時間）

ねらい：生存権や労働基本権をクイズ形式などで学び、生徒の生活にいかす方法を身につける。

### ⑤ 広がる人権の考え方（2時間）

ねらい：新しい人権の考え方を学び、インターネットである店への悪口の書き込みという例から、お互いの権利をどのように調整できるか、解決策を考える。



## パフォーマンス課題の評価

	3	2	1
I 関心・意欲・態度	憲法と法律の比較が立憲主義と人権の尊重とを関連づけて意欲的に学ぶことができる。論述や討議にも主体的に取り組める。	憲法と法律の比較が立憲主義と人権の尊重とを関連づけて学ぼうとし、論述や討議にも取り組める。	憲法と法律の比較に興味を持つが、論述や討議に受動的に取り組む。
II 思考・判断・表現	国民の人権を守るための考えを、他者が納得できるよう根拠をしめして説明できる。	国民の人権を守るための考えを説明できる。(納得できる根拠が不十分である)	国民の人権を守るための考えの説明が不十分である。

## 単元を通して身につけてほしいこと

私たちが日々暮らしている中でおきる困りごとや人々との意見の対立を解決する手段の一つとして、日本国憲法と憲法にもとづく法律の活用があります。実際の事件や裁判からどのように私たちの人権を守り、育てていくのか、を考察しました。将来の主権者として社会を担う高校生に、よりよい社会をみんなで作るために憲法や法律を使いこなせるための知識と考え方を身につけることをねらっています。また、この単元（基本的人権の学習）を通して、社会における公正や正義・幸福への見方・考え方を多様な視点から深めてほしい、と考えています。

## 実践の背景

- 2年次生は、1学期より授業冒頭に時事問題を一人一分間スピーチで内容と自身の意見を発表する活動を行い、現代の課題を自ら考えようとする態度は育まれつつあります。そこで教科書の理解中心の受動的学習を減らし、現代の課題を通して憲法の人権規定の内容や意義を学べるよう、生徒自身の価値判断や根拠を示した意見表明を記述や口頭発表でおこない、互いの人権が尊重される社会のあり方を主体的に考察できることを目標としました。

## 授業改善のアプローチ

- 内容理解(条文の語句と意義、判例の要旨と意義)は基本事項を中心におさえ、自身と他者の人権を守り、調整するために必要な知識や思考のスキルが身につくように、単元を設定しました。また、生徒の生活や将来に結びつく事例を設定し、「自分ごと」として課題に対する学びを深めてもらいたいと考えています。
- 教科書や資料集の活用に加え、なるべく生徒が主体的に社会の動きや変化に関心を持ってもらいたいと考え、今年度など最新のできごとの新聞記事やインターネットなどから題材を探し、提示するよう工夫しました。
- クラス全体討議や班別討議、紙上討論等クラスの実態に合わせて、お互いの考えが共有できるように工夫しました。

## 生徒の変容

授業前と授業後に以下の2つの質問に回答してもらい、生徒の黙秘権に関する権利意識の変化をみました。

- Q1** 犯罪の取り調べにおいて容疑者が何も話さないこと(黙秘)を法律での権利として認めることは正しいと思いますか。
- Q2** 犯罪の取り調べにおいて、容疑者は真実を明らかにするために知っていることを正直に話すべきだと思いますか。
- について、**1** まったく思わない **2** あまり思わない **3** どちらかと言えばそう思う **4** とても思う の選択肢を設けました。

授業前の**Q1**への回答は、**3**が6割、**4**が1割でしたが、授業後は**3**が4割、**4**が4割と黙秘権への認知が進みました。

一方、**Q2**への回答は**3**と**4**の回答が授業前後ともに約7割、**1**の回答が授業後に約1割増加という結果でした。

身体的自由を守る権利は理解できたが、「自分が知っていることは話すべき」という誠実さの表れととらえました。

私たちの人権を守るために憲法と法律があることへの理解が深められたようです。

## 評価

### 現代社会の長期レビューリック

観点	到達度		
	達成度1	達成度2	達成度3
関心・意欲・態度	現代社会の諸課題に興味を持ち、どのような課題があるか、考えようとしている。	現代社会の諸課題に興味を持ち、どのような課題があるか、自己の生き方と関連させながら考えることができる。	現代社会の諸課題に興味を持ち、どのような課題があるか、自己の生き方と関連させながら考え、課題解決に向けて意欲的に追究できる。
思考・判断	現代社会の諸課題をどのような課題があるかを判断し、見つけることができる。	現代社会の諸課題を自己の生き方と関連づけ、どのような課題があるかを見つけ、意見を表明できる。	現代社会の諸課題を自己の生き方と関連づけ、課題を見つけ、課題解決に向けて正義・公正の観点から多角的に考え、根拠をあげて自分の提案をまとめ発表できる。
表現・技能	現代社会の諸課題を様々なメディアから資料を収集する技能を身に付けている。	現代社会の諸課題を様々なメディアから資料を収集し、読み取り、課題解決に役立つ情報を適切に選択し、活用している。	現代社会の諸課題について課題解決に役立つ情報を様々なメディアから収集・活用し、根拠をあげて自分の提案をまとめた発表ができる。
知識・理解	現代社会の諸課題について資料を収集する力や、考えるために必要な公民的知識を身に付けている。	現代社会の諸課題について資料を収集、課題解決に役立つ情報を適切に選択し、活用のための必要な公民的知識を身に付けている。	現代社会の諸課題について事実から課題を見つけ、課題解決に向け多角的に考える公民的知識を身に付け、試行錯誤を通して提案の根拠となる知識を獲得している。

成績評価は パフォーマンス(授業の取り組みと提出物)を45%、 考査を55% で総合評価しています。